

ベトナム中部沿岸域村落の生活と水辺空間の役割 —フンフォン社ヴァンクアドン村を事例として—

笠井 梓

キーワード：ベトナム、水辺空間、コミュニティスペース、利用形態の変化、水質向上

1. 背景と目的

現在、ベトナムでは急速な経済成長に伴い、電力供給網や水資源供給などインフラ整備が進められている。その一方、未だに水辺空間を中心とした暮らしを行っている地域も多数存在する。本研究では、現在も利用されている「水辺空間」に焦点を当て、ベトナム中部の沿岸域村落を事例とした現地調査を行う。現地調査から沿岸域村落における水辺空間の機能と役割を知り、その利用の実態と変遷を明らかにすることとする。そして、その調査から得られた結果を基に、今後の水辺空間の展望を考察することを目的とする。

2. 調査地域

ベトナム中部トゥアティンフエ省に位置するフンフォン社は2本の河川と瀉に囲まれた沿岸地域である。水に恵まれた環境を活かし、農漁村として生活が営まれてきた。一方で、本調査地域は雨季と乾季が明瞭に区別される熱帯モンスーン気候に分類され、雨季には洪水や台風などの発生する自然災害常襲地でもある。そのため、護岸整備や可動堰を設置する等の対処が行われるようになった。また近年では、家庭排水の流入による水質悪化が懸念されている。

3. 調査方法

本研究は、村落内に存在する ben nuoc（以下：水場と称する）と呼ばれる洗濯などを行う水辺空間を調査対象とし、アンケート調査・聞き取り調査・参与観察法を用いた。2010年8月～11月、2011年8月～10月の2期にかけて村に滞在し、研究対象である研究対象地域の住民と水辺空間との関係性について観察。その間に、コンクリートで作られた16箇所の各水場にて、主たる利用者である20代以上の女性を対象に、現在の水場の利用方法・利用頻度・水道水の利用状況等の把握に関するアンケート調査を実施した。さらに、30代以上の女性を対象に水道設置前と設置後の水場の利用方法および利用頻度の変化について、また、年配者を対象に過去の水場の利用についても聞き取り調査を行った。

4. 調査結果

本調査にて、水場は建設資材や抛出方法の違いにより簡易型水場と施設型水場の2種類に分類できることを把握した。さらに施設型水場にて詳細な調査を行なったところ、今でも多くの女性が衣類の洗濯、食器洗いなどに利用しており、中には魚や肉など食材の前処理やゴミの投棄を同時に行なう利用者も見られた。このように日常生活の一部として水場が利用されていることから、近所の人々が多く集まり、日常の会話や情報交換が行なわれる「井戸端」のようなコミュニティスペースとなっている。

このような発達を遂げた水場だが、水質の悪化や上水道の普及により、水場の利用頻度の減少あるいは利用しない世帯が年々増加し始めている。また、村人の利便性の追求により、先祖への祈祷として水場で行なわれてきたボートレースが喪失され、文化の伝承も途絶えつつある。一方で、上水道の断水が頻繁に起こることを理由に水場を利用する人は多く、水場利用は今でも住民にとって重要な役割を果たしていることが示唆され、水場の水質向上と継続的利用方法の確立が不可欠であると考えられる。